

KIS 国際物流ニュース！ (2019年1月号)

国際物流業務に役立つ 最新情報をお届け！

国際事情、行政、システム、導入事例、多彩な情報からピックアップ



中国向け日本米輸出へ期待 上質米への農家や消費者の変化

中国で米（コメ）の味に注目が集まるようになってきたそうです。直接的なインパクトとしては、中国で「食」をテーマにしたドキュメンタリー番組が放送され、その中で「上質米」の丁寧な栽培ぶりとそのおいしさ、安全性が伝えられ、一気にブームになったと言われています。間接的には近年の日本への旅行で食べたご飯のおいしさ、それを家電量販店で購入した高機能の電気炊飯器を持ち帰って中国の上質米を炊きたてでおいしく楽しめるようになったこともあります。そういった需要の拡大により中国の農家は標準米より価格が3~4倍する上質米（さらに高級米）の栽培の割合を増やすようになっているそうです。

一方、日本のコメ産地は中国への輸出に対しては長い目でみて大いに期待しているようです。それは日本国内の消費量が長期的に減少傾向にあること、中国米の上質米へのシフトにより日本米との価格差が縮まっていること等があります。日本から進出する日本食レストランで日本米を提供し始めたことによる人気や、コンビニおにぎりといった新しい食べ方の普及や、おいしいお米の炊き方の知識普及といった地道な活動を通して浸透していくと期待しています。中国でコメは全国で広く主食として食されていますが、これまでは味へのこだわりはそれほど強くなかったそうです。それが所得の向上や日本での経験により「コメの味」に関心が高まり、上質のコメの流通がどんどん増えれば、おいしい日本米にも輸出の恩恵がもたらされると思います。

海上輸送における自動運転 未来の船へ向けて

世界の海上荷動き量は2016年に110億トン、2004年比約5割増えたそうです。海上輸送という市場（マーケット）は拡大しているのに、日本人船員は約2割減り、船舶の建造量は世界から水をあけられている状況です。この状況を打破するために日本の造船業界では「自動運航船」の実現に向かっていきます。

船舶の自動運航は、操船の中でも最も難易度が高く事故が多い入出港時の離着陸の自動化の研究段階にあるそうです。自動車の自動運転は研究がどんどん進み、山手線も自動運転のテストを開始しました。人の移動や物流等の課題である人手不足、安全運転は、実現すれば大いに改善されると思われます。

RPA導入支援 日刊CARGO紙に掲載

物流総合新聞「日刊CARGO」(海事プレス社発行)に、弊社のRPAの取組が記事となりました。

12月19日（水）新聞および電子版に、国際物流業務でのPRA（Robotic Process Automation）の提案や取組やお客様の導入事例が掲載されました。

日刊CARGO 電子版 関西総合システム RPA導入支援を本格化 40年以上の物流支援生かす

<http://www.daily-cargo.com/new/news/128858/>